

家庭科学習指導案

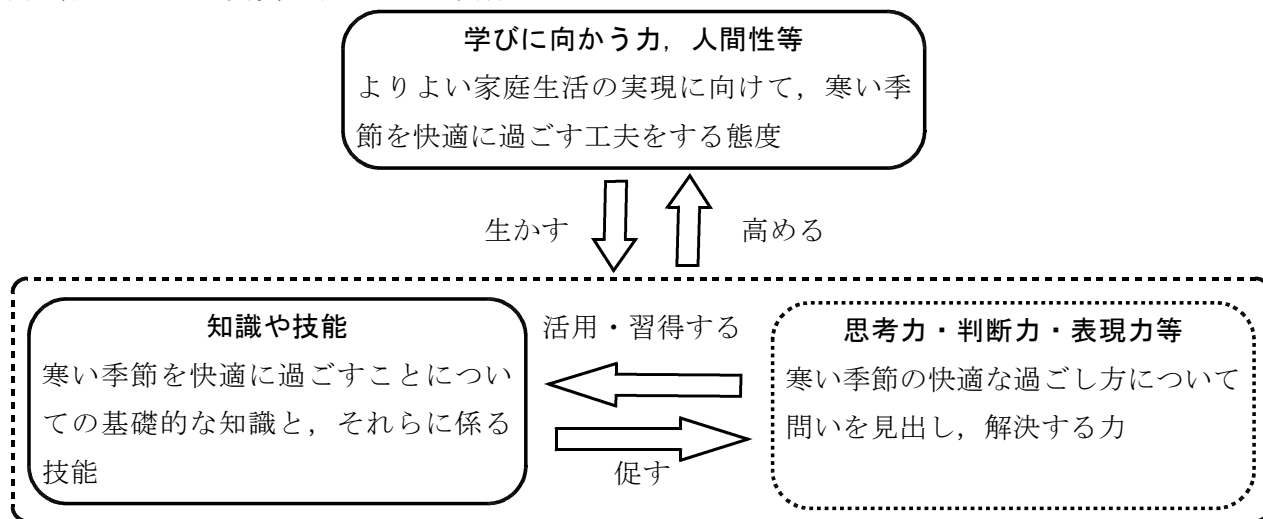
平成28年11月8日(火)第6校時 (調理室) 6年3組 指導者

I 題材 寒い季節を快適に

II 考察

1 題材観

(1) 育まれる主な資質・能力とその関係



(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

C 快適な衣服と住まい (1) 衣服の着用と手入れ

ア 衣服の働きが分かり, 衣服に関心をもって日常着の快適な着方を工夫できること。

(2) 快適な住まい方

イ 季節の変化に合わせた生活の大切さが分かり, 快適な住まい方を工夫できること。

(3) 本題材の価値

本題材では, 体温と同程度の温度の水を入れた容器と, 衣服に見たてた布を用いて体温で暖められた空気を逃がさないようにする重ね着の仕方を考える学習をする。その価値は, 以下のとおりである。

冬は気温が下がり, 寒くなる。そのため, 1年で最も体調を崩しやすい季節である。人々が健康で快適に生活するためには, 寒さを防ぎ, 冬を暖かく過ごすことが大切である。多くの家庭では, 暖房器具を使用して寒さを防ぎ, 冬を暖かく過ごしている。しかし, 暑さや寒さの感覚に個人差があったり, 室内と室外の温度差の大きさにより体調不良を引き起こしたりする。そのため, 暖房器具のみに頼らず, 衣服の着方による暖かさの調節も組み合わせていくことが大切となる。

子どもたちは, 生活経験から暖かさを保つことに重ね着が有効であることは知っている。しかし, 重ね着が暖かさを保つ理由や, 効果的な重ね着の仕方までは理解していない。そこで, 体温と同程度の温度の水を入れた容器と, 衣服に見たてた布を用いて, その間の空気の温度を測定しながら, 様々な重ね着の仕方を試行する。これは, 実践的・体験的な活動を通して, 課題の解決

に向けて、友達と一緒に暖かさを保つ重ね着の仕方を考える上で有効である。そして、考えた暖かさを保つ重ね着の仕方を、普段着ている衣服で試すことは、重ね着をして体温で暖められた空気を逃がさないようにして暖かさを保つ基礎的・基本的な知識や技能を実感を伴いながら身に付けることにつながる。

これらの学習を行うことは、子どもたちが、今後の日常生活の中で、重ね着をすることで寒さを防ぎ、寒い季節を快適に過ごそうとする態度を育成することにつながっていく。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、中学校1年「自分らしく着る」で、時・場所・場合に応じた衣服の着用や個性を生かす着用の仕方を考える学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「夏の省エネライフー風の通り道をつくろうー」において、部屋の模型を用いて風通しをよくする窓の開け方を考え、その方法で教室や家庭の風の通り道づくりを行う学習に取り組んできた。そして、子どもたちは身に付けた窓の開け方で風の通り道をつくり、暑い季節の室内の温度や湿度を快適にしている。

これらの学習や生活経験の中で、明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- (1) 風の通り道づくりをした教室の温度や湿度の調査を行い、風通しをよくする窓の開け方は、室内の温度や湿度を調節できることを理解してきた。このような子どもたちが、重ね着をして体温で暖められた空気を逃がさないようにすることで暖かさを保てることを理解できるように、普段着ている衣服で重ね着をして、衣服内の空気の温度を測定する場を設定する。
- (2) 開閉できる窓が複数ある部屋の模型を用いて風通しをよくする窓の開け方を繰り返し試行し、室内の風通しをよくする窓の開け方を考えてきた。このような子どもたちが、体温と同程度の温度の水を入れた容器と、衣服に見たてた布を用いて空気の温度を測り、重ね着をして体温で暖められた空気を逃がさないようにする重ね着の仕方を繰り返し試行する場を設定する。
- (3) 「室内の風通しをよくするには、どのようにしたらよいのだろう」という、目標とする状態とよりよい家庭生活を実現するための方法を求める課題を追究し、生活の中において風の力を生かして室内の温度や湿度を調節することへの興味・関心を高めてきた。このような子どもたちが、重ね着をして体温で暖められた空気を増やすことで暖かさを保ち、寒い冬を快適に過ごすことへの興味・関心を高められるように、目標とする状態とよりよい家庭生活を実現するための方法を求める課題「寒い冬に家の中でも外でも暖かく快適に過ごすには、どのように重ね着をすればよいのだろう」を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 体温と同程度の温度の水を入れた容器の周りに衣服に見たてた2枚の布を重ねて巻き付け、重ね着をした状態のモデルをつくり、その容器と布の間の空気の温度を測定することを通して、自分たちで考えた体温で暖められた空気を逃がさないようにする重ね着の仕方の結果を得る。
- 2 準備 体温と同程度の温度の水を入れた容器 衣服に見たてた布 デジタル温度計

3 展 開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の時間は、暖かさの保ちやすさは布の種類によって違うことが確認できたから、重ね着の仕方でも暖かさは違うと思うよ。 <p>2 布の種類による暖かさ比べの結果を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家の中でフリースの服を着ていると暖かいので、フリースの生地を調べたけれど、風があたると、温度がすぐに下がったよ。 ・友達が調べたウインドブレーカーの生地は外に出るときよく着るから、暖かさが保てると思ったけど、それ1枚だけでは、風があたると温度が下がってしまうのだな。 <p>3 重ね着による暖かさ比べをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、家でよく着ている肌着とフリースの2枚の生地調べてみよう。 ・肌着の生地を加えるだけで、温度の変化が少なくなったから、普段の生活でも、肌着を1枚着るといのは暖かさを保つのに必要なのだな。 ・それでも、風があたる外の状態では、温度が下がってしまうよ。 ・友達は、厚みのある生地がいいと言っているから、フリースよりも厚みのある生地調べてみよう。 ・確かに、重ねる生地で温度の変化が違うから、普段着る服でも組合せが大切だな。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分とは違うことを試した友達の意見を合わせて考えたら、重ね着の仕方によって暖かさが違うことが比べられたな。 ・今度は、実際に自分が着ている服で重ね着をして、本当に暖かさを保てるか、体と服の間の温度を測って調べたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○暖かさを保つ重ね着の仕方を考えるという目的をもてるように、前時に試行した布の種類による衣服内の空気の温度変化について問いかける。 ○自分や友達が試行して捉えた布の種類による暖かさをグループで共有できるように、前時に温度の変化を記述した学習プリントを用いて、試行した結果を伝え合うよう促す。 ○グループで共有した布の種類による暖かさをの違いを基に、暖かさを保つ重ね着の仕方を検討できるように、普段自分たちがしている重ね着の仕方を、体温と同程度の温度の水を入れた容器と衣服に見たてた布で再現するよう促す。 ○重ね着の仕方による暖かさをの違いを調査できるように、デジタル温度計を用意し、様々な重ね着の仕方と体温と同程度の温度の水を入れた容器と衣服に見たてた布の間の空気の温度を測定するよう促す。 ○暖かさを保つ重ね着の仕方の結果を得られるように、温度を測定した結果と試行して考えたことを学習プリントに記述するよう促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p style="text-align: center;">体温で暖められた空気を逃がさないようにする重ね着の仕方を考え、記述したり、発言したりしている。</p> <p style="text-align: center;"><学習プリント・発言(2)></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○互いに試行したことを話し合うことのよさを自覚できるように、協力して暖かさを保つ重ね着の仕方の結果を得られたことを賞賛する。 ○次時への見通しをもつことができるように、次時は暖かさを保つ重ね着の仕方の結果を基に、自分が普段着ている衣服で暖かさを保つ重ね着の仕方をするを伝える。

指導と評価の計画（全6時間）

目標	冬の気候に合わせた暖かさを保つ重ね着の仕方が分かり、日常生活に生かそうとする。			
評価規準	<p>(1 知識・技能) 重ね着をして体温で暖められた空気を逃がさないようにすることで暖かさを保てることや、暖かさを保ちやすい布の種類が分かり、暖かさを保つ重ね着の仕方ができる。</p> <p>(2 思考力・判断力・表現力等) 暖かさを保つ重ね着の仕方についての問いを見出し、体温で暖められた空気を増やしたり、その空気を逃がさないようにしたりする暖かさを保つ重ね着の仕方を考え、工夫している。</p> <p>(3 学びに向かう力・人間性等) 冬の気候に合わせた暖かさを保つ重ね着の仕方に関心を持ち、重ね着をして体温で暖められた空気を増やすことで暖かさを保ち、寒い冬を快適に過ごそうとしている。</p>			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法（観点）>
見 つ め る ・ つ か む	1	○暖かさを保つ重ね着の仕方についての疑問点や調べたいことを考え、課題をつかむ。 課題：「寒い冬に家の中でも外でも暖かく快適に過ごすには、どのように重ね着をすればよいのだろう」	○衣服内の空気の温度が快適な状態や、そのために必要な衣服の着方に着目できるように、自分の衣服内の空気の温度を測定する場を設定する。	◇暖かさを保つ重ね着の仕方について、疑問点や調べたいことを記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言（2）>
	家庭 1	○寒い冬に暖かさを保つ重ね着の仕方について調査する。 ○暖かさ比べの計画を立てる。	○家庭で調査したことを基に、布の種類と重ね着の仕方に着目して計画を立てられるように、体温と同程度の温度の水を入れた容器と、それに巻き付けることができる複数の布を用意する。	◇布の種類や重ね着の仕方を変えて調べるという暖かさ比べの計画を記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言（3）>
追 究 す る	1	○布の種類による暖かさ比べを行う。	○暖かさを保ちやすさは、布の種類によって異なることを理解できるように、体温と同程度の温度の水を入れた容器に、衣服に見たてた数種類の布を1枚巻き、容器と布の間の空気の温度を比較する活動を設定する。	◇暖かさを保ちやすい布の種類を記述したり、発言したりしている。<学習プリント・発言（1）>
	1	○重ね着による暖かさ比べを行う。（本時）	○体温で暖められた空気を逃がさないようにする衣服の着方を具体的に考えられるように、体温と同程度の温度の水を入れた容器と、衣服に見たてた布を用いて、体温で暖められた空気を逃がさないようにする重ね着の仕方を試行する場を設定する。	◇体温で暖められた空気を逃がさないようにする重ね着の仕方を考え記述したり、発言したりしている。 <学習プリント・発言（2）>
	1	○暖かさを保つ重ね着の仕方をする。	○体温で暖められた空気を逃がさないようにする暖かさを保つ重ね着の仕方ができるように、普段着ている衣服で重ね着をし、衣服内の空気の温度を測定する場を設定する。	◇重ね着をして体温で暖められた空気を逃がさないようにしたり、その重ね着の仕方を記述したりしている。 <行動観察・学習プリント（1）>
ま ・ と 広 め げ る	家庭 1	○家庭で暖かさを保つ重ね着の仕方をする。 ○家庭で暖かさを保つ重ね着の仕方をした結果や、寒い冬を快適に過ごすための方法について話し合う。	○暖かさを保つ重ね着の仕方をしたり、寒い冬を快適に過ごそうとする意欲をさらに高めたりできるように、話し合う際の観点として、「家庭で取り組んだことのよさ」を提示する。	◇家庭で取り組んだことのよさを基に、重ね着をして体温で暖められた空気を逃がさないようにし、暖かさを保とうとする意欲や、寒い冬を快適に過ごすための日光や暖房の効果的な利用について、発言したりしている。 <学習プリント・発言（3）>